

# NEW SONG

## 新生讃美歌ニュースレター

### 賛美歌検討専門委員に任命されて

賛美歌検討専門委員 伊藤園子（目白ヶ丘）

『新生讃美歌』の誕生に関わらなかったものが委員に任命され、『新生讃美歌』（2003）を見直し検討をする作業に加わることになりました。編集委員でなかったものが、全く白紙の状態を感じたことをお話しすることが私の使命なのかな、と思いお引き受けいたしました。いろいろ違和感を感じることはありました。しかし、委員会の回を重ねるごとに、制作にかかわった方々のご苦勞がひしひしと伝わってきて、違和感がなぜ起きるのが少しずつ明らかになってきました。たとえば、著作権に関する法律や手続きの複雑さ、文語体と口語体の問題。様々な課題に直面しながら、どうしたらより良いものになるのだろうか？と思うように変えられました。私自身は、バプテストとは？ 賛美歌集とは？ 著作権とは？ 賛美歌が作られた時代背景は？ ジャンルは？ 知らないことばかりでした。神様から、賛美歌のことをよく知りなさい、もっと学びなさいと言われたように思いました。

作曲家山田耕作が子供のころ、『主我を愛す』を“ジーザス ラス ミー ジス アイ ノー、 ホーライ バイブル テス ミー ソー”（Jesus loves me this I know, for the bible tells me so）と、意味も分からなく歌っていたそうですが、大きくなってその意味を知り感動したそうです。子供たちには文語はわからないからと安易に口語に変えることによって賛美歌の持つ味わいを消してしまうこともあります。文語体か口語体か選択の連続だと思えます。

音楽の好みは千差万別です。違いを認め合っていくのがバプテストですが、捨てるもよいことと捨てるはいけないことの見極めが大切であり難しいことだと思えました。

賛美することで礼拝が豊かにされていく、そのような賛美歌を収めたいものです。礼拝以外で用いられるようなもの、あるいは収めきれないものは、別に目的別に曲集を作ることも考えてよいのではないかと感じています。すべての教会の望みに合った賛美歌集を作ることは不可能ですから、教会が教会ごとの信仰をもってその日の礼拝にふさわしい曲を選びとっていくのだと思えます。そのためにも賛美歌の選曲・順番・項目・等々とても難しいことなのですが、熟慮が必要であり、なおかつ選び易くできたらよいと思えます。

まだまだ答えは出ませんが、1つ1つの賛美歌のことを深く知りバプテストの賛美歌にふさわしいものであるかよく考え、自分の嫌いなものを切り捨て好きなものだけを受け入れるのではなく、しなやかな心、ぶれない心を持って選択して、より良い賛美歌集を考えていきたいものと願っています。

# 新生讃美歌と私

～新生讃美歌53年のあゆみから～

## 第14回 編集委員会の思い出

真部 恵子

『新生讃美歌増補Ⅰ』『新生讃美歌増補Ⅱ』  
『新生讃美歌』（2003） 編集委員

私が教会へ初めて行ったのは、小学校4年生の11月、札幌に雪の降った寒い朝でした。教会のクリスマスに一種の憧れをいただいていたのです。友人と二人で、ドキドキしながら出席した私たちに、教会の方々はとても優しく迎えて下さいました。はじめて歌った賛美歌は「羊はねむれり」という曲で、歌の大好きな私はすぐに覚え、大きな声で賛美したことを、今でもはっきり覚えています。

高校1年の秋、進路で悩んでいた私に、神様は道を示して下さり、その年のクリスマスにバプテスマを受け、音大の音楽科に進むこともできました。憧れだった聖歌隊に入り毎週の練習が待ち遠しい程、楽しく教会生活を送らせていただくなかで、音楽の教師だった主人と結婚し、3人の子供が与えられ、教会生活を通して、子供たちもすくすくと成長し、気がついてみると3人とも音大に進むことが出来ました。丁度、下の子が、東京の音楽高校に進学した翌年に、賛美歌の編集委員の依頼があり、「なんで私が？」と思いつつも、東京の息子の逢いたいがために、簡単に引き受けてしまいました。

最初の編集委員会に出席した時は、古澤先生はじめ、大先輩の先生方が連れて

いらして、私は居場所がありませんでした。活発に飛び交う言葉のレベルの高さに、全くついてゆけず、ただただ聴き入っておりました。

編集委員会では、毎回たくさんの楽譜が送られてきて、まず自分なりに、曲を採用したいか否かを、判断し勉強していきます。そして編集会議にてさらに、一曲ずつ歌ったり、詩の検討をし採用の可否を積み重ねていきました。札幌教会では祈祷会のときに、『新生讃美歌』のⅠとⅡを歌っており、素敵な曲がたくさんありましたので、それらに入っていた賛美歌が候補に上がる度に、嬉しい気持ちになりました。

曲目の選択が終わると、訳をしなければなりません。語学に強い方々にお願いし、上がってきた訳をさらに委員会で検討します。丁度『讃美歌21』が出た頃で、ほとんどを口語訳にしたことへの批判などが出ており、委員会でも訳に関しては随分時間をかけた記憶があります。文語は、言葉数が口語より少なくなくて済むためメロディーにはまりやすいのです。でも、今の時代を考えると、なるべく口語にしようと思います。でも、「それじゃ、ポエティックではありません」と反対す

---

 ～ 新生讃美歌のあゆみ ～

|             |       |
|-------------|-------|
| 日本バプテスト連盟創立 | 1947年 |
| 「新生讃美歌Ⅰ」    | 1957年 |
| 「新生讃美歌Ⅱ」    | 1963年 |
| 「新生讃美歌Ⅱ」改訂版 | 1966年 |
| 「新生讃美歌Ⅲ」    | 1982年 |
| 「新生讃美歌Ⅳ」    | 1984年 |
| 「新生讃美歌」     | 1989年 |
| 「新生讃美歌増補Ⅰ」  | 1997年 |
| 「新生讃美歌増補Ⅱ」  | 1999年 |
| 「新生讃美歌」     | 2003年 |

---

る意見もあります。「文語でも美しい言葉は残すべき」という意見にうなずいたり、こんなに訳について考えたことはありませんでした。

そうこうしているうちに、私にまで訳の宿題が与えられました。教会で語学の堪能な方に助けて頂き、できるだけ原詩の持っている意味をそこなわず、かつ歌いやすいように訳するために、祈らずにはおられませんでした。主の憐みをいただき、6曲の訳に関わらせて頂いたことは、私にとって貴重な経験となりました。

訳がどんどん出来上がってくると、編集委員会の仕事も佳境に入り、さらに仕事が細分化され、私は讃美歌を歌う際の前奏記号をつけることと、曲のミーター（韻律）を記する役割が与えられました。曲数が多いので、東京バプテスト神学校の音楽科の生徒さんにも助けていただき感謝でした。

他にも、讃美歌を編集する仕事は膨大で、時間との戦いでした。私は札幌でしたので、残りの細かなところは、東京近辺在住の方々が本当に多くの時間を捧げて一生懸命に作業して下さいました。

新生讃美歌編集委員と多くの協力者を得て完成した『新生讃美歌』（2003）が送られてきた時は、感無量でした。讃美歌を

より使いやすくするために、索引も充実しており、曲が探しやすく工夫されています。また説教や集会の目的に合わせて、聖句引照、用途・項目索引もあります。約20カ国の讃美歌が収録されており、世界祈祷週間の時などは、いろいろの国の讃美歌の紹介をしたり讃美することが出来ます。また、私たちの国から生まれたオリジナルの讃美歌がたくさん入っています。これは、長い間、外国の讃美歌に頼ってきたことからみると、画期的であり喜ばしいことです。

私の信仰生活をふり返ってみると、絶えず教会音楽、讃美のなかに活かされていたことを思います。どんなに疲れていても、聖歌隊の練習から帰ってくると癒され、心に平安が与えられるのです。讃美歌の持っている特別な霊的力を感じます。

「新しい歌を主に向かって歌え」（詩篇96）これからも、主に向かっていつも新たな気持ちで、心からの讃美を捧げていきたいと思います。

最後に、この小さき力足りない者を用い、励まして下さった編集委員の皆様と、神様に心より感謝いたします。

（札幌バプテスト教会会員）

## 新生讚美歌CD制作裏話

CD制作担当委員：岩崎光洋（福岡教会自由ヶ丘伝道所）

前号に続いて、新生讚美歌CD「心こめて主をたたえ」の制作時のエピソードをご紹介します。

レコーディングは主に関東圏で行いました。福岡県在住の私（岩崎）が録音機材を方々に持ち運んで録音しました。持ち運んだ録音機材は、スーツケース2つ分ぐらいの分量です。まずは小さめのスーツケースぐらいの大きさのレコーダーで荷物1つ分。それに、マイクやケーブル、ヘッドフォン、サブミキサー他、雑々としたものを、もう1つのスーツケースに押し込んでまとめました。旅行の経験がある方ならお分かりになると思いますが、数多くの小さい荷物を1つのスーツケースに入れるのは、ある種のセンスと緻密な頭脳が必要です。上手く入れられずスーツケースに収めきれない経験をされた方もおられるでしょう。センスも緻密な頭脳もない私には、マイクやケーブル等の機材をスーツケース1つにまとめるのは一苦勞。それでも散々やり直して「これだ！」というレイアウトに行き着き、万全の体制で録音出張に出発！両手に1つずつスーツケースをガラガラ引きずって、私の着替え類を入れた肩掛けバッグを肩から下げて歩くというスタイル。試行錯誤を繰り返して、この完璧な移動スタイルに行き着いたのです。

福岡空港で手荷物預けの手続きをしていたら、

（係員）「お客様、お預け荷物の重量が超過しております。」

（岩崎）「はあ、そうですか。」

（係員）「申し訳ありませんが、超過分の代金をいただくこととなりますが。」

（岩崎）「いくらですか？」

（係員）「これですと5000円になります。」

（岩崎）「（驚！）ま、待ってください！そんなお金ありませんよ！」

（係員）「そうおっしゃられましても……。」

（岩崎）「すみませんっ！紙袋くださいっ！」

急遽、スーツケースの荷物をその場でバラして次々と航空会社の紙袋に詰め替え。確か10キロ分ぐらいの荷物を紙袋に詰め、破れそうになりながら機内に持ち込みました。せつかく荷物をスーツケースに上手く詰め込んで、シメシメと、ちょっといい気分になっていたのに……トホホ（泣）。

（追記）

私が住んでいるところは田舎町で、JRの駅にエスカレーターエレベーターの類は無く、改札からホームまで階段を上り下りしなければならず、そのせいで電車に乗り遅れ、飛行機に間に合わないのではないかと冷や冷やしたというエピソードもあります。

『新生讚美歌CD 心をこめて主をたたえ』好評につき…

『**新生讚美歌CD Part 2**』制作始動！

CDを聞いてくださった皆さんから、たくさんの感想を頂いています。

さらに、さらに豊かな賛美をお届けします、どうぞお祈り&ご期待ください。